CASE STUDY

グローバル拠点に「教育が届く」多言語のセキュリティ教育基盤を構築

●海外展開の加速で浮かび上がった教育の限界

マックスは「世界中の暮らしや仕事をもっと楽に、楽しくする」というコーポレートビジョンを掲げ、オフィスで利用されるホッチキスのほか、建設現場でコンクリート基礎を作る際に不可欠な鉄筋結束機やエアコンプレッサ、さらに浴室暖房・換気・乾燥機など、ナンバーワン・オンリーワンの製品を提供し、国内はもちろん、北米やヨーロッパ、アジアなどグローバルに事業を展開してきた。
20年以上にわたる取り組みの中では、システム障害が生産ラインに影響を与える恐れもあり、ITの信頼性と可用性を高めるためBCPの強化に努めてきた。また、多くの顧客情報を扱う企業として、2004年にはISO27001の前身 BS7799 を取得し、「人」にフォーカスした教育を長年継続してきた。
しかし海外売上比率が高まり、事業が拡大する中で、2年ほど前に海外でのヒヤリハットが増え、拠点ごとに教育の浸透度にも差が生じていたことが新たな課題として浮かび上がった。
これまでも、駐在員の支援も得ながらグローバルでのセキュリティ教育に取り組んできたものの、言語ごとに自作の動画や資料を作り込むには毎回1週間ほどかかっており、英語だけでなく中国語、タイ語、マレー語など多言語にコンテンツを展開していくことを考えると、より効率的で効果的な教育ソリューションが必要ではないかと考え始めた。
「自分たちの手の届く範囲である国内や日本人の駐在員には手厚く教育を実施できていました。しかし、海外ローカルの従業員に広げていくとなると、言語や文化の壁もあり難しさを感じていました。日本語で作成したコンテンツを、ITやセキュリティ技術を何も知らない人に翻訳してほしいと依頼してもおそらく難しいでしょう。かといって、専門の業者に依頼すれば予算も工数もかかります。」（五十嵐氏）
さらに、DX推進やクラウド活用が進む中で扱うテーマは年々増加。しかし年2回の座学では最新トピックをタイムリーに共有する難しさがあった。こうした背景から、国内外を問わず継続的に意識を維持できる仕組みづくりの必要性を感じていた。

●セキュリティに特化したコンテンツを多言語で継続的に提供できるKnowBe4に着目

多言語展開の効率化を目指し教育ソリューションの情報収集を進める中で、存在を知ったのがKnowBe4だった。
「インターネット上の検索を用いて、多言語に対応しており、また情報セキュリティに特化したコンテンツが用意されている教育ソリューションを調査したところKnowBe4にヒットしました」（五十嵐氏）。“多言語に対応した豊富なコンテンツがそろっている”ことは、海外教育を強化したい同社にとって大きな決め手となった。さらに最新トピックを扱う

マックス株式会社

業界
製造業

本社
東京都中央区

キーフレーズ
「必要なときにいつでも教育を実施できるKnowBe4は非常に有用だと感じています 」

マックス株式会社
コーポレート本部
デジタルイノベーション統括部
次長　五十嵐規夫氏

ポイント
- 多言語コンテンツで、海外含む全拠点へ教育を届ける仕組みを実現
- 継続学習とメール訓練により、全社的な意識維持と実践力を強化
- 海外拠点のITベンダーとの調整に至るまでを総合的に支援

動画や短くまとまった教材が多く、自作での教育展開にはない継続教育基盤としてのメリットも感じた。
導入に当たっては、以前からインフラ構築やシステム開発で縁のあったSCSKの支援を得ることにし、その勧めもあってまずPoCを実施した。「PoCの際に検証すべき項目も出していただくなど、導入に向けて不安なく進められる支援をいただきました」（五十嵐氏）
実際にKnowBe4のコンテンツに触れてみると、「まず豊富なコンテンツがそろい、それぞれ面白いという印象を持ちました。また、Webブラウザだけでなくスマートフォンからも閲覧でき、一つ一つが短く簡潔で、時間を取られない点にも好感を抱きました」と五十嵐氏は言う。
PoCの過程で、当初は構想していなかったメール訓練も実施した方がいいと考え始めた。それ以前は部署単位で自発的に実施していたが、KnowBe4ならば教育コンテンツ同様に豊富なテンプレートが用意されており、多言語で実施できる。さらにSCSKから、教育とメール訓練を同時に展開することで効果が高まること、設定も共通化できることなど具体的な提案があり、導入の後押しとなった。
海外へ展開していく中では、各国の従業員の情報を国外に出したくないというニーズも浮上したが、KnowBe4社も交えて密にコミュニケーションを取りながら進めることでスムーズな展開につながった。「他社ではどのように海外展開をしているのかについて事例を教えていただき、テナントをわけることで解決できました」（五十嵐氏）。

●海外を含む全社で教育が行き届く環境を実現

KnowBe4導入による成果は、これまで展開が難しかった海外拠点を含め、継続的に教育を届けられる”仕組み“が整ったことである。多言語対応した大量のコンテンツが利用できるようになったことで、従来必要だった工数がほぼ不要となり、海外教育にかかる負荷が大幅に軽減された。
「以前は、海外向けの資料を作って翻訳し、話す練習に工数を割いていました。必要なときにいつでも教育を実施できるKnowBe4は非常に有用だと感じています」（五十嵐氏）。
また、国内向けにも、従来どおり年2回の座学教育を行いながら、KnowBe4の短い動画コンテンツを月次で配信することにより“継続して教育を届ける仕組み”も確立。
「座学ではポリシーや規定の見直し部分を重点的に教育するほか、Microsoft 365など全社で取り入れたクラウドサービスの使い方と運用、そして最新の脅威などについて広く学んだ上で、国内ではKnowBe4のコンテンツを1ヶ月に2～3本ずつ見てもらうことで、常にセキュリティの意識を失わないように意図しています」（五十嵐氏）。
メール訓練についても、まず自部署内から開始し、段階的に国内従業員や海外ローカルの従業員向けに展開した。「レポート機能を活用し、訓練メールの既読率・クリック率などを定期的にモニタリングしています。他社との比較ができるベンチマークデータは、経営陣への現状報告に非常に役立っています」（五十嵐氏）

●グローバル全体でのリスク対策と継続教育をさらに強化へ

KnowBe4により国内外へ教育を届けられる基盤が整ったマックスでは、今後は海外拠点も含めたさらなるセキュリティ体制の強化にも取り組んでいく方針だ。KnowBe4の特徴の一つである連続ドラマ形式のコンテンツについても、従業員に関心を持ってもらいやすい点を評価しており、今後はこうした多様なコンテンツの海外展開を模索していく。メール訓練についても、従業員の業務にあわせてテーマや難易度を調整しながら、国内外で定期的に実施していく方針だ。近年の攻撃事例の増加もあり、経営陣からも「今後も継続して取り組んでほしい」という声が寄せられており、継続的な強化が必要だという認識を共有している。
マックスでは今回の導入を“完了”ではなく“スタート”と位置づけ、グローバル全体での教育レベル向上とセキュリティ文化のさらなる定着を目指していく考えだ。

© 2026 KnowBe4, Inc. All rights reserved.Other product and company names mentioned herein may be trademarks and/or registered trademarks of their respective companies.